

教室便り（平成18年度）

卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。平成16年度から国立大学が独立行政法人となり、お茶の水女子大学も女性リーダーを育成する大学として特色を出しつつあります。お茶の水地理学会を通じて、卒業生からのさまざまな形での応援の声に感謝します。しかしながら、本学地理学教室に関して、独立行政法人化してから不透明な部分があり、また本誌「お茶の水地理」の存続について検討中であることを、お伝えしておきます。

平成18年度の地理学教室の近況について、お知らせします。学内の地理学教室のメンバーは、前号でも書かれているように、大きく変化しています。学部では、人文科学科地理学コースに田宮・栗原・水野・宮澤の4名の教員が、グローバル文化学環に石塚・熊谷の2名の教員が属しています。宮澤仁助教授（都市地理学、福祉地理学、GIS）は、平成18年4月に本学に着任し、地理学教室の教員の平均年齢が一気に下がりました。

また、大学院博士前期課程では、ジェンダー社会科学専攻の地理環境学コースに田宮・栗原・熊谷・水野・宮澤の5名の教員が、開発・ジェンダー論コースに石塚の1名の教員が属しています。このように、地理学関連の教員が学部・大学院で複雑な所属となっています。こうした教員の所属の複雑さが地理学教室およびお茶の水地理学会の将来に不透明な要素を残していますが、平成19年4月から本学が大学院部局化（教員全員が大学院博士後期課程に所属し、大学院博士前期課程・学部へは学内出向という形をとる）することによって、大学院博士後期課程においては、ジェンダー学際研究専攻の中に6名全員が属し、大学院では地理学関連の教員にまとまりができています。なお、こうした教室の一体化の裏には、博士（理学）、修士（理学）の育成を放棄するという、苦しい決断をせざるを得ませんでした。博士（理学）、修士（理学）を取得された卒業生の皆様に、この点について了解していただければと思います。

さらに、地理学教室の事務を担当するアカデミック・アシスタントとして、倉本美奈子さん（30回生）と沼畑早苗さん（38回生）を迎え、お茶

の水地理学会の事務を担当した経験を持つお二人の力によって、助手室の事務機能は強力になったと考えています。こうした事務体勢のもと、7階の地理学教室関連の部屋も整備しました。たとえば、707室は地理学PCルームとして、GISソフトがインストールされた13台のPC、大判スキャナー、大判プリンターを各1台整備し、他大学に見劣りしないGIS教育のハード・ソフト環境を整えました。また704室は地図室として、ナショナル・アトラス、各種地形図、外邦図など、これまで教室で蓄積してきた地図類を整備しました。さらに、7階の廊下の壁面に多くの掲示板を設置して、地理学教室の教員・院生の最近の研究動向を、パネルふうに表示しています。図書の収蔵スペースに困っていた図書室も、遅ればせながら所蔵図書チェックと図書館本館への配架換えを進め、そして近年の卒論、修論はすべて簡易製本してキャビネットに収蔵しました（以前に教室から呼びかけた卒論の返却に応じた方々の分を除く）。宮澤さんの着任をきっかけに、地理学教室が体系的に整備された一年だったと言えます。それは、本学地理学教室で長らく所蔵されながら、保管・整備が十分でなかった外邦図の貴重なコレクションを、宮澤さんの東北大助手時代の外邦図目録作りの経験を生かして、目録作り、地図室整備、外邦図研究会の開催などを実行できたところにも表れています。

地理学教室の学生数では、平成18年度において、学部4年14名、3年22名、2年14名、大学院博士前期課程2年4名、1年6名、博士後期課程は（休学を含めると）7名在籍しています。学部4年生、博士前期課程2年生は全員、卒業・修了し、それぞれの進路を決めています。博士後期課程では、山本理佳さんが平成18年度をもって満期退学し、学位論文の提出の準備を行っているほか、佐藤朋子さん、秋山祐佳里さんは学位論文提出の可能性が途絶えたことから満期退学、佐藤真知子さんは中途退学し、それぞれの道に進んでいます。平成18年3月に本学で学位取得した齋藤元子さん、西律子さんは、本学人間文化研究院研究員として、

引き続き地理学教室の重要な構成メンバーです。平成19年度に学部地理学コースへの進学予定者は6名、大学院博士前期課程への進学予定者は3名、博士後期課程への進学予定者は該当なしです。年度によって学生数に変動があり、特に近年は進学予定者の減少が見られますが、教員数が減少したことに対応した結果ともいえます。

平成15年度までの地理学教室の教員は幅広い分野をカバーし、しかも教員個人の性格も多様だったといえます。これに対して、近年では、少人数であっても充実した研究・教育を行うために、カリキュラムの整備をして、地理学のさまざまな科目を体系的に位置づけました。一日巡検、夏の大巡検は相変わらず必修科目として重視していますが、新たにGIS演習を必修とし、人文地理学と自然地理学の基礎演習、英書講読を選択必修としました。さらに、社会調査士の免許が取得できるような科目群を開講しています。詳しい動向は、これまた内容を整備・充実させた本学地理学コースのホームページで知ることができます。

<http://www.li.ocha.ac.jp/hum/chiriog/chiri.htm>

卒業生の皆様のさらなる活躍を祈願し、本学地理学教室の発展をこれからも進めていきます。
(2007年7月記／コース主任 水野 勲)

[2006年度巡検一覧]

- 5月20日 三浦半島 (永迫：非常勤講師)
- 5月21日 武蔵野 (永迫：非常勤講師)
- 6月3日 神田川 (水野)
- 6月30日～7月5日
大巡検：甕島 (熊谷、石塚)
- 10月7日 御嶽山 (中台：グローバル文化学環
AA)
- 10月28日 多摩ニュータウン (宮澤)
- 11月23日 麻布 (栗原)
- 1月12日～14日 高尾山観測 (田宮)
- 2月13日 江東0m地帯 (水野)